

大会テクニカルレポート

大会名 全日本少年サッカー大会 東京都中央大会			
日時	11月3日(祝) 11月7日(土) 11月8日(日)	会場	南豊ヶ岡フィールド
	11月7日(土)	会場	稲城長峰スポーツ広場
	11月14日(土)	会場	赤羽スポーツの森公園競技場
	11月15日(日)	会場	小石川運動場
	11月21日(土)	会場	町田市立陸上競技場
	11月23日(祝)	会場	味の素スタジアム西競技場

東京都少年サッカー連盟 委員長 高山 清
 技術指導部長 井上 雅志
 文責 技術指導部 米原 隆幸

結果概要

優勝 三菱養和SC巣鴨ジュニア 準優勝 東京ヴェルディジュニア
 3位 JACPA東京FC 4位 三菱養和SC調布ジュニア

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	94	325	3.45
昨大会	48	165	3.44

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

ボールが来る前に『観ておく』作業が疎かになり、ボールを受けてから探す選手と、事前に観て準備・イメージしている選手では判断については大きく差があった。また、ミスをおそれて判断をせず、安易なプレーを選択してしまう選手も見受けられた。しかし、その中でも優先順位を意識して良い判断をしていた選手は、今後大きな伸びしろを感じさせてくれた。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

目的を持って意図のあるファーストタッチからのパスやドリブルで効果的な攻撃が多く見られた。テクニックにおいても、パスの質や動きながらのボールコントロールは素晴らしい選手が多数いた。しかしながら、タイトなコンタクトを受けるとテクニックを発揮する事だけでなく、判断も出来なくなってしまう選手がいるのも現実。ミスをおそれずプレッシャー下でも判断を伴ったテクニックを発揮出来る選手を育成していきたい。

③攻守に関わり続ける

ボールに近い選手は積極的にプレーに直接関わろうとしているが、攻撃では三人目の動きになりうる選手のイメージの共有や、守備ではサードDFの意識が低いように感じられた。一手・二手先を考えて攻守に関わっている選手はチャンスをつかみ、ピンチを防ぐシーンが多かった。サッカーにおいては、攻守の切り替えや、局面の変化に対応すべく、常にに関わり続けなければならないと痛感した。

④積極的にコミュニケーションできる

チームによって異なるが、守備や攻撃時のプレーに特化した具体的なオーガナイズが増えてきた。しかし、チームが劣勢になると、途端にコミュニケーションが減少してしまう傾向がある。好不調に左右される事無く積極的に選手同士でコミュニケーションがとれるようにしたい。

⑤リスペクトの心をもてる

一人審判のレフェリングにも自分で判断する事なく、プレーをし続ける選手が増えた。試合後に相手チームの選手・スタッフが健闘を讃え合うシーンが多々あった。また、ロッカールームの清掃やグラウンドのゴミ拾いが当たり前のように行われるようになった事は誇らしい。

総評

春の予選から冬に移行した大会。年間のリーグ戦を勝ち抜いた94チームでのトーナメント戦での代表決定になった。素晴らしいピッチとスムーズな運営のおかげで、滞りなく進んだ。小学年代の集大成としての大会らしく、全チーム仕上がりが良く、拮抗したゲームが多く繰り広げられた。中でも守備の構築とセットプレーの精度はかなり高かったため、様々な駆け引きが見られた。最終日に残った4チームは、それぞれスタイルがあり、見ていて楽しかった。中でも優勝した三菱養和SC巣鴨ジュニアは攻守にバランスのとれたグッドチームだった。東京の代表として全国大会での活躍を期待したい。また、今大会から参加した女子チームの健闘も光った大会になった。